

# 「について」「に対して」の 意味・用法をめぐって

坂井厚子

## 0 序

日本語を母国語として習得してきた私たちは、例えば「その問題について説明する」や「その意見に対して反論する」などといった文をふだん何気なく使っている。ところが、「について」や「に対して」はどんな意味をもち、どのような使われ方をするのか、と改めて説明を求められると戸惑ってしまう人が多いのではないだろうか。

日本語教育では、中級段階で「について」「に対して」を導入している場合が多い。ところが、かなり日本語を使いこなせる学習者でも、この2つを混同して使ってしまうケースが非常に多い。

「について」「に対して」はこれまで主に文法的な位置づけ、という観点から研究がすすめてきた。しかし、日本語教育の中で学習者に対してこれらの使い方の違いを明確に説明していくためには、意味論的な観点からの考察も必要であると考えられる。

本稿では、「について」「に対して」の意味、用法という観点から論じ、あわせて教授法への応用を考えたい。

## 1 問題提起——学習者の誤用例から——

留学生の作文に次のような誤用例がみられた。

- a あなたのふるさとに対して何か書いて下さい。
- b マスコミは、あの事件に対してくわしくお伝えしました。
- c マスコミは、あの事件に対して調査の結果を発表しました。
- d マスコミは、あの事件に対して皆に知らせるように伝えました。
- e 過半数の人が新しい制度について反対している。

a～dでは「について」と用いられるべきところに「に対して」が、eでは「に対して」と用いられるべきところに「について」が用いられている。このような混同は何故おこるのだろうか。また、「について」「に対して」をわかりやすく指導するためにはどのようにすればよいのであろうか。本稿では、「について」「に対して」の意味・用法を比較し、それぞれの特徴をさぐることによって誤用の原因を明らかにし、あわせて教授法への応用を考えていきたい。

## 2 文法的な位置づけ——先行研究から——

「～について」「～に対して」のこれまでの文法的な位置づけは、後置詞として位置づける説、複合格助詞として位置づける説などに分かれている。

「について」「に対して」を動詞「つく」「対する」が後置詞化したもの、とする立場は鈴木(1972)、高橋等がとっている。鈴木は、「について」「に対して」をに格支配の後置詞、とした。高橋は後置詞化の特色として、もとの動詞等のもつ意味が稀薄になり、関係的な意味、機能が強くおしだされてくることをあげている。後置詞はもとの意味のきれたところで再編成されるため、別の動詞から発達した後置詞が同じ関係的な意味をもつようになる。「について」「に対して」を後置詞と位置づける観点から考察すると、それぞれ動詞「つく」「対する」が後置詞化したものであるが、いずれも行為者(actor)と対象物(object)の関わり方をあらわすという関係的な意味が類似しているため、混同がおこりやすくなったといえよう。

これに対し、「について」「に対して」を助詞相当の語や複合格助詞とする説がある。橋本進吉は「について」を「助詞相当連語」の中に分類している。橋本は『新文典記』の中で、「第一種の助詞(格助詞に相当)と同様に用ひられる連語」として、「をして」「について」「によって」「において」「における」等をあげている。また、仁田(1982)は「について」「に対して」を、「において」「にとって」「に関して」等と共に複合格助詞として位置づけた。

複合格助詞は複合助詞の中に含まれるものであるが、複合助詞について、砂川(1987)は「複数の語が結合して助詞と同じような働きをもつようになった形式」と定義している。砂川は複合助詞をさらに2つのグループに分けた。1) 動詞や名詞など、実質的意味をもつ語がその実質的意味を失い、形態的に固定化して助詞と同じような機能をはたすようになったものと、2) 複数の助詞が結合して1語の助詞相当になったものである。この分類によると、「について」「に対して」は1)のグループに属することになる。「について」「に対して」がもとの実質的意味「つく」「対する」が稀薄となり関係構成的な意味が強くおしだされてしまっているため混同されやすい、ということは後置詞という観点からもいえる。しかし、「もとの意味が完全に失われたわけでないことは、これらの複合助詞の間になおかつ微妙な意味の差が認められること、またそのためには上記のような言い換えがきかないことによってもわかる。そして、このような実質的な意味の失われ方(あるいは残り方)は個々の複合助詞によって異なっている」と砂川が指摘しているように、「について」「に対して」についても、もとの動詞の実質的意味が完全に失われたわけではなく、なおかつ微妙な意味の差が存在していることは否めないであろう。こうした「微妙な意味の差」が「について」「に対して」の使い分けのポイントになっているといえる。

「について」「に対して」はこれまで主に文法的位置づけという立場から論じられてきた。しかし、外国人にこれらの用法の違いをわかりやすく説明するためには、意味論的な観点からの考察も必要ではないかと考える。以下では、この2つに共起する動詞の意味、応答形式等での使われ方などを検討し、「について」「に対して」の意味・用法の差を明らかにしたい。

### 3 「について」「に対して」の意味・用法をめぐって

#### 3.1 「について」「に対して」の定義づけをめぐって

「について」「に対して」について、仁田(1982)は『日本語教育事典』の中で次のように定義づけている。

## 【について】

- (1) 動作や状態等が向けられる対象となる事柄を表す。  
 「日本文法について本を書く」  
 「平和について話し合う」
- (2) 割合を表す。  
 「一冊につき100円安くする」
- (3) 「につき」の形で理由を表す。  
 「本日定休日につき休業させていただきます」

## 【に対して】

- (1) 動作が向けられる対象や目標を表す。  
 「質問に対して答える。  
 「教師に対して反抗する子供たち」
- (2) 割合を表す。  
 「子供一人に対して手当が3000円出る」

「について」「に対して」の混同は、それぞれの(1)の用法のさい、おこりやすいものと思われる。しかしながら、(1)の用法を「動作や状態等が向けられる対象となる事柄」(について)、「動作や状態が向けられる対象や目標」(に対して)と定義しただけでは、両者の違いが明確に表われない。むしろ、行為者と対象物がどのように関わり合うのか、その関わり方の違いに両者の違いが明確に表わされるように思う。

3.2では「について」「に対して」に共起する動詞(形容詞、形容動詞)を実際の用例で検討し、行為者と対象物の関わり方の違いを中心に考察をすすめる。尚、本稿においては割合の意味で用いられる「について」「に対して」、及び比較の意味で用いられる「に対して」はとり扱う範囲から除くものとする。

## 3.2 「について」「に対して」に共起する動詞、形容詞、形容動詞)の考察

## 3.2.1 言語・思考活動をあらわす動詞と共起する場合

薦原(1984)は「～について」は言語・思考活動の具体的内容を示すものが多い、と定義している。確かに薦原の指摘通り、「彼は、その計画について説明した」のように「について」が言語・思考活動をあらわす動詞に共起する場合は多い。しかし、例えば「彼はA君の意見について反論した」のように、言語・思考活動をあらわす動詞の中でも「について」に共起しにくい場合もみられる。この現象はどのように説明できるのであろうか。以下では、「について」「に対して」に言語・思考活動をあらわす動詞がどのように共起するのか比較検討し、それぞれの共起の仕方の特徴をさぐりたい(註1)。

次の例をみてみたい。

- ① 私はA君の意見について自分の意見を述べた。 ○
- ② 私はA君の意見に対して自分の意見を述べた。 ○
- ③ 私はA君の意見について反論した。 ×
- ④ 私はA君の意見に対して反論した。 ○

- ⑤ 私はA君の意見について言い訳した。 ?  
 ⑥ 私はA君の意見に対して言い訳した。 ○  
 ⑦ 私はA君の意見について説明した。 ○  
 ⑧ 私はA君の意見に対して説明した。 ?  
 ⑨ 私はA君の意見について自分の感想を述べた。 ○  
 ⑩ 私はA君の意見に対して自分の感想を述べた。 ×

上記の例から言語・思考活動をあらわす動詞の中でも、「について」に共起しやすいもの（「説明する」「感想を述べる」など）、「に対して」に共起しやすいもの（「言い訳する」「反論する」など）に分かれている、ということが出来る。（もちろん①、②の例にみられるように「について」「に対して」両方に共起しやすいものもある。）

では、どのような動詞が「について」と共起しやすいのであろうか。また、「に対して」についてはどうであろうか。以下では、特に行為者と対象物（人の場合も含む）との関わり方を中心に、実際の使用例から検討をすすめていきたい。

#### 「について」と共起する場合

- ⑪ ソ連経済について今何らかの話をするのは非常にむずかしい。（信毎，91.9.1）  
 ⑫ あいかわらず暑いですねえと言ってから彼はエウリビデスの戯曲におけるデウス・エクス・マキナの役割について話し始めた。（ノル）  
 ⑬ エウリビデスにおける神がアイスキュロスやソフォクレスのそれとどう違うかについて彼は語った。（ノル）  
 ⑭ ドリトル先生を中心に、おなじみの動物たちが「人間とクルマ」「社会とクルマ」「地球とクルマ」について語り合うストーリー。（読）  
 ⑮ 以下、各曲についてごく簡単に要点だけを説明しておくが……（メ）  
 ⑯ 彼は1971年の「歴史と構造——マルクス主義的認識論（ヒストリーク）の諸問題」において、われわれの課題、すなわち創造することと生成することが同時に起こっている歴史の認識についてリュゼンを引用しつつ、次のように述べている。（思）  
 ⑰ 人と話していて、その人のことばづかいについて、ときどき思うことがあります。（日本語，91.9）  
 ⑱ また、ゴルバチョフ大統領は共同声明が呼びかけている人権宣言の採択について当初新憲法の一部として考えていたが……（朝，91.9.5）  
 ⑲ それから、アスパラガスを使った料理について考えた。チーズ焼きと、てんぷらと、ベーコン巻きと、おひたしと。（シュ）  
 ⑳ クルマと社会のかかわり、これからの交通システムということ、人とクルマの共存といった広い視点からクルマについて考え、その中に環境という大きなテーマがあるわけです。（読）

⑪～⑯では言語活動をあらわす動詞、⑰～⑲では思考活動をあらわす動詞が共起している。「について」に言語・思考活動をあらわす動詞が共起している場合はかなり多いが、その中でも、例えば「説明する」「語る」などのように対象物の具体的内容のうけとめ方を表わす言語・思考活動が行なわれている場合に「について」が共起しやすいといえる。用例を中心に詳しくみてみたい。

⑫においては、「彼」（行為者）の、「デウス・エクス・マキナの役割」（対象物）の具体的内容についてのうけとめ方をあらわす言語活動が行なわれている。また、⑬では「人権宣言の採択」（対象物）の具体的内容についての「ゴルバチョフ」（行為者）のうけとめ方をあらわす思考活動が行なわれている。⑬、⑭、⑰では対象物の内容がさらに具体的に、詳しく述べられている。例えば、⑭では対象物は「人間とクルマ」「社会とクルマ」「地球とクルマ」であり、⑰では「アスパラガスを使った料理」が「チーズ巻き」「てんぷら」「ベーコン巻き」「おひたし」と具体的に示されている。⑭、⑱、⑲の例からは対象物が複数であることがわかる。また、⑳では「（これからの交通システムということ、人とクルマの共存）といった広い視点から」という表現が使われている。このように対象物を様々な観点からうけとめるという意味も「～について」はもっているといえよう。

以上をまとめると、「について」に言語・思考活動をあらわす動詞が共起しやすい場合は、行為者が対象物の具体的内容を様々な観点からうけとめ、あらわす言語・思考活動を行なっているといえる。

「～について」に共起しやすい言語・思考活動をあらわす動詞をあげてみたい。

（言語活動をあらわす動詞）

話す、話し合う、語る、述べる、しゃべる、伝える、意見をだす、言う、報告する、質問する、答える、たずねる、解説する、説明する、相談する、述懐する、討論する、協議する、議論する、演説する、審議する、批評する、宣伝する、うわさする、論じる、伺う、発表する、コメントする、助言する、等

（思考活動をあらわす動詞）

思う、考える、考察する、記憶する、迷う、悩む、思いだす、想像する、考慮する、等

「に対して」と共起する場合

- ⑲ この問題に対して、例えばブルクハルトは非科学的の学問としての歴史叙述を主張することで答えようとした。（思）
- ⑳ あなたは、あなた自身に対して答えなければならないのです。（心）
- ㉑ 「でもそれ以来、誰も俺に対して何も言えなくなったよ。上級生も含めて誰もだよ。」（ノル）
- ㉒ 父親はそんな話に対して<うん><うん>と返事をしているだけだった。（ノル）
- ㉓ 僕は僕なりに誠実に生きてきたつもりだし、誰に対しても嘘はつきませんでした。（ノル）
- ㉔ 今日いちにちの自分の行為に対して僕はまったく後悔しなかったし、……（ノル）

⑲の「言う」は「反論する」に近い意味を含んでいる。⑲～㉔の例をみると、「に対して」は「主張する」「答える」「返事をする」「嘘をつく」「後悔する」など、行為者の対象物への態度が明確に示されている動詞に共起しやすい、ということがいえる。また、対象物は「この問題」、「あなた自身」「自分の行為」等全体としてひとつのもの、としてとらえられている。

「に対して」は裁判に関する表現にもよく用いられる。例えば、

- ㉕ 裁判官は被告に対して懲役3年の判決をいわたした。  
がその例である。この場合、行為者の話者に対する明確な態度が示されており、しかも両者

の間に一定の距離がおかれている。裁判に関する表現では、他に、例えば「国に対して訴訟をおこす」などの例が考えられる。

以上をまとめると、「に対して」に言語・思考動詞をあらわす動詞が共起しやすい場合は、行為者が対象物を全体でひとつのものとしてとらえ、対象物への態度が明確に示されている言語・思考活動が行なわれているといえる。

以下に、「に対して」に共起しやすい言語・思考活動をあらわす動詞をあげる。

（言語活動をあらわす動詞）

反論する、言いわけする、弁解する、批判する、答える、(返事する)、主張する、抗議する、あいさつする、訴える、説得する、責める、どなりつける、よびかける、話しかける、叫ぶ、嘘をつく、請求する、忠告する、警告する、追及する、等

宣告する、(判決を) いわたす、訴訟をおこす、等

（思考活動をあらわす動詞）

後悔する、憂慮する、反省する、劣等感をもつ、等

以上、「について」「に対して」が言語・思考活動をあらわす動詞に共起する場合をみてきた。しかし、もちろん「について」「に対して」の両方に共起できる動詞も存在する。例えば3.2.1の冒頭にあげた例文①、②の場合「(意見を)述べた」という動詞が「について」と「に対して」の両方に共起する。しかし、「について」が共起する場合と、「に対して」が共起する場合では、文全体の意味が微妙に異なってくる。

「私はA君の意見について自分の意見を述べた。」の場合、「私」の意見の述べ方はA君の意見の具体的内容についての感想に近いような述べ方である。これに対して、「私はA君の意見に対して自分の意見を述べた。」という場合、「私」の意見の述べ方はA君の意見に賛成か反対かはっきり態度を示した意見の述べ方であるといえよう。このように「について」が用いられる場合と、「に対して」が用いられる場合とでは同じ動詞に共起する場合でも微妙に意味の差が生じるのである。このことについては3.4で応答形式の場合を中心にさらに詳しくみていくことにする。

以上、本節では言語・思考活動をあらわす動詞が「について」「に対して」に共起する場合を検討した。確かに葛原の指摘通り「について」は言語・思考活動の具体的内容をあらわす動詞と共起しやすい。しかし言語・思考活動をあらわす動詞の中でも「について」に共起しやすいものと、「に対して」に共起しやすいものが存在する、といえる。また、「について」と「に対して」は言語・思考活動をあらわす動詞以外の動詞（形容詞、形容動詞）にも共起する。3.2.2ではそれらの場合を特に「行為者」と「対象物」との関わり方に注目しながら用例を中心に検討し、「について」「に対して」の特徴を明らかにしたい。

### 3.2.2 言語・思考活動をあらわす動詞以外の動詞(形容詞、形容動詞)と共起する場合

「について」と共起する場合

⑳ また、田淵氏は補てん先について「補てんの認識が全くない企業はほとんどない」との見方を示した。(朝, 91,9.5)

㉑ 午後の審議では、松野証券局長が引きうけ、売買部門とも寡占体制にある大手証券について、「両部門の分離を命じるところまでいかないが、大手の引きうけシェアを下げるた

め、中小の総合証券会社を多く参加させる引き受けシンジケート団方法を考える必要がある。」との方針を示した。(信毎, 91,9.1)

- ③⑩ 吉田さんは、わたしと同じ学校の工学部の大学院生で、金属について研究していた。(シュ)
- ③⑪ 私的生活を考えるにあたっては人々が私生活に形を与える最古の形態である愛と夫婦生活について、また新しくはあるがますます重要になりつつある形態として、中産階級のアメリカ人がそこに私的世界での意味をみいだしているところのセラピーについて調べることにした。(心)

上記の例からもわかるように、「について」は「見方を示す」「方針を示す」など、行為者の、対象物の具体的な内容のうけとめ方、すなわち知覚、見解をあらわす動詞が共起する場合が多い。また、対象物のうけとめ方は③⑩の例からもわかるようにひと通りでなく、様々な角度からうけとめられている。「様々な角度から対象物の具体的な内容をうけとめる」という特徴は、言語・思考活動をあらわす動詞と共起する場合と共通であるといえる(註2)。また、「研究する」「調べる」などの動詞は行為者が対象物と積極的に関わりをもとうとするという意味を含んでいるため、行為者と対象物の関係は密接である、ということが出来る。これは「について」が動詞「つく」の意味的影響を多少なりともうけていることを示しているためではないかといえる。

以上、②⑧～③⑪の例から「について」に共起する動詞の特徴をさぐってみた。言語・思考活動をあらわす動詞以外の動詞で、「について」に共起しやすいものを以下に挙げる(註3)。

教える、研究する、書く(著わす)、読む、学ぶ、習う、予測する、検討する、知っている、調べる、紹介する、判断する、見方(見解)を示す、方針を示す、試みる、要約する、まとめる、取材する、決める、交渉する、評価する、計画する、了承する、承認する、承諾する、等

#### 「に対して」と共起する場合

- ③⑫ 彼らに関心があるのは、だいたい新しい家をもつこと、家の設備を整えること、そして自分の家に対して投資してきたものが保護されることです。(心)
- ③⑬ 他者に対して正当な要求をする能力のこうした欠如は……(心)
- ③⑭ モンビはモノビがなまったもので、元来モノイミすなわち神に対してつつしんで忌みこもるべき日であったことを……(日本人)
- ③⑮ どんはに豪華な料理を用意しても、もてなす側は客に対してへりくだった態度をとることを客は承知しているからだ。(欧)
- ③⑯ (日本人は)コミュニケーション・ギャップが異文化間にあるという事実に対して十分に神経をつかっていないのである。(首)
- ③⑰ 「でもこの世界で、この不完全な生者の世界で俺は直子に対して俺なりのベストを尽くしたんだよ。」(ノル)
- ③⑱ 僕は永沢さんが酔払ってある女の子に対しておそろしく意地悪くあたるのを目にして以来、この男にだけは何があっても心を許すまいと決心したのだ。(ノル)
- ③⑲ (彼らは)白人政權に対して必死の闘いを挑んでいた。(アフリカ)
- ③⑳ そうだからといって、ジョーは共同体における自己の働きに対して、個人的報酬を受け

とることに無関心だというわけではない。(心)

④① 僕自身は無力だが、こういう風になっている限り、彼らもまた僕に対しては無力なのだ。

(ノル)

④② 「私は自分自身に対してよりは他人に対する方がずっと我慢づよいし、自分自身に対するよりは他人に対する方が物事の良い面を引きだしやすいの。」(ノル)

④③ X (原告) は Y (被告) に対し、本件手形振出の原因である本件債権の支払いを請求した。(法セミ)

上記の例をみると、言語・思考活動をあらわす動詞以外の動詞で「に対して」に共起する動詞は、「要求する」「投資する」「挑む」など、いずれも行為者の対象物への一定の距離をおいた態度が示されていることがわかる。④④「つつしんで忌みこもる」④⑤「へりくだった態度をとる」④⑥「神経を使う」④⑦「ベストを尽くす」等はその態度のとり方が具体的に述べられている。「に対して」の場合、行為者の対象物に対する態度は行為者が対象物と密接な関わりをもとうとする「について」の場合と異なり、行為者は対象物をつき離してとらえており、両者の間には一定の距離がおかれている。これは、「に対して」がもとの動詞「対する」の意味的影響をうけているためと思われる。④⑧、④⑨では「意地悪くあたる」「闘いを挑む」という表現が用いられているが、行為者と対象物との間に一定の距離がおかれている、ということに加えてさらに攻撃的な意味が加わっているといえる。森山(1988)は、「ニタインテ」がつく場合は特に対向的な意味が強調される、と述べている。④⑧、④⑨はその例としてあげられよう。しかし、次のように行為者と対象物が対向的でない場合にも「に対して」が用いられる。

④④ そして自分がこの死にかけている小柄な男に対して好感のようなものを抱いていることに気づいた。(ノル)

④⑤ 彼は僕に対してはいつも変わることなく親切だったし、あれこれ面倒をみてくれた。

(ノル)

④⑥ 彼は妻や子供に対して愛情を感じていた。

これらの場合は、いずれも行為者と対象物是对向的な関係ではないが、行為者の、対象物に対する態度が示され、また、両者の間には一定の距離がおかれているという点では他の場合と共通性をもつ。

「に対して」は④⑦、④⑧、④⑨のように形容詞や形容動詞にも共起する。これらの例では「無関心だ」「我慢づよい」等が用いられているが、いずれも対象物への、行為者の主観的な感情が示されている。

また、「について」は対象物の具体的内容が様々な観点からとらえられている場合に用いられるが、「に対して」が用いられる場合、対象物は全体としてひとつのもの、としてとらえられている。例えば、④⑨の場合、対象物の「白人政権」はそれ自体全体としてひとつのものとしてとらえられており、具体的な内容としてとらえられていないということからもわかる。

「に対して」は次の④⑩の例のように「について」と置き換えが可能な場合にも用いられる。

④⑩ 「引越しの挨拶」ではアメリカにおける引越しの際の挨拶のルール(近所の人が引越してきた人に挨拶に行く)とは正反対の日本のルールに対して、実に九割強の者が理解を示

した。(首)

④⑦の「に対して」は「について」にも置きかえが可能であるが、「に対して」が用いられる場合と「について」が用いられる場合では意味上の差がでてくる。つまり、「について」が用いられる場合は行為者が積極的に対象物の具体的内容(日本のルール)を理解しようと働きかけているのに対し、「に対して」が用いられる場合は行為者が一定の距離をおいた上で対象物を理解しようとしているのである。

以上、③②～④⑦の例から、「に対して」に共起する動詞(形容詞、形容動詞)の特徴をさぐってみた。言語・思考活動をあらわす動詞以外の動詞(形容詞、形容動詞)で「に対して」に共起しやすいものを以下に挙げる。

#### <動詞>

要求する、請求する、忌みこもる、挑む、逆らう、反発する、干渉する、協力する、そむく、従う、たち向かう、抵抗する、反対する、賛成する、やさしくする、冷たくする、拒否する、無視する、迷惑をかける、反撃する、注意する、邪魔をする、押しつける、権利をもつ、義務をもつ、責任をもつ、偏見をもつ、好感(反感)を抱く、ベストを尽くす、おびえる、同情する、謝る、恐怖(愛情)を感じる、傷つく、敬意を示す、怒る、<sup>(註4)</sup>等

#### <形容動詞>

親切だ、寛大だ、無力だ、無関心だ、無感情だ、憶病だ、無責任だ、不満だ、寛大だ、意欲的だ、好意的だ、等

#### <形容詞>

我慢づよい、やさしい、冷たい、厳しい、恥かしい、等

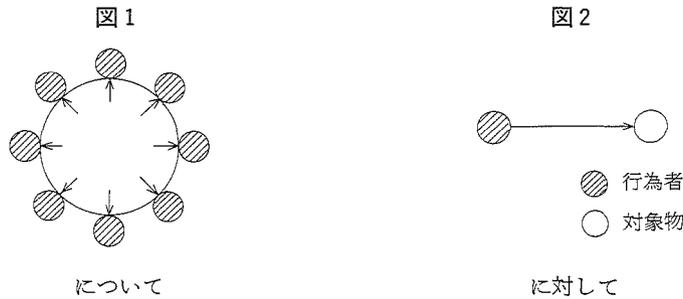
### 3.2.3 「について」「に対して」の定義づけ

3.2では共起する動詞の意味的特徴という観点から、「について」「に対して」の特徴を言語・思考活動をあらわす動詞、及びそれ以外の動詞(形容詞、形容動詞)の場合に分けて、さぐってみた。「について」「に対して」の特徴を定義づけると次のようになる。

「について」は、対象物に対する行為者の知覚、見解(もしくはそれをあらわす言語・思考活動)をあらわす動詞と共起しやすい。「について」は行為者が、対象物の具体的な内容を様々な観点からうけとめる、という意味をもつ。行為者は対象物に対し、積極的に関わりをもとうとし、二者の関わり方は密接である。

「に対して」は、行為者の、対象物への一定の態度、感情(もしくはそれをあらわす言語・思考活動)をあらわす動詞(形容詞、形容動詞)と共起しやすい。行為者と対象物の間には一定の距離がおかれ、両者の関係が対向的・攻撃的となる場合もある。また、対象物は全体としてひとつのものとしてとらえられている。

以上の定義から、「について」「に対して」を行為者と対象物の関わり方を図にすると図1及び図2のようになる。



### 3.3 「について」「に対して」の用法をめぐって——応答形式を中心に——

3.2では「について」「に対して」に共起する動詞の意味的特徴を用例から検討し、行為者と対象物の関わり方、という観点から定義づけを行った。では、「について」「に対して」は実際の場面ではどのように使われているのだろうか。また、その使い分けはどのようになされているのだろうか。本節では特に応答形式を中心に「について」「に対して」の用法をさぐってみたい。

「について」「に対して」が同じ動詞に共起する可能性があることは3.2.1の冒頭の①、②の例文「私はA君の意見について／に対して 意見をのべた。」からも明らかである。では、同じ動詞に共起した場合、使われ方はどのように異なるのだろうか。次の応答形式の例を比較してみたい。

④⑧ a あなたはこの計画についてどう思いますか？

b ハア、時期はよいと思いますが、人数がちょっと足りませんね……。

④⑨ a あなたはこの計画に対してどう思いますか？

b ウーン、ちょっと賛成できませんね。

④⑧ a では、対象物（この計画）の具体的な内容の様々な角度からの受けとめ方についてたずねている。したがって④⑨ b では、人数や時期など様々な角度から「この計画」の具体的な内容について意見が述べられている。④⑨ b の応答では、特に賛成、反対の姿勢を明確に示す必要はなく、婉曲的で曖昧な応答が可能である。

これに対し、④⑨ a では、行為者の、対象物（この計画）全体に対する直接的な態度がたずねられている。④⑨ b では行為者（bの話者）の対象物（この計画）に対する明確な態度（賛成か反対か）が示された応答がなされている。

以上から、「について」が用いられる場合は曖昧で婉曲的な応答が可能だが、「に対して」が用いられる場合は対象物への一定の直接的態度を示す応答が要求される、といえる。応答形式の「について」「に対して」にみられるこの特徴は、アンケート報告やインタビュー記事等にもみることができる。

⑤⑩ 具体的には過去に業界で主催した会合などに参加したことのある方、2500人を対象にどんな回収方法を望むかなどについてアンケート調査をします。(朝、91.9.10)

⑤⑩はアンケートの設問内容であるが、ここでは対象物（アンケートの設問）の内容がどのようなものであったのか具体的に詳しく述べられているということがわかる。

また、インタビューの応答部分が述べられている例としては⑤⑩の例をあげることができる。

⑤ ……その一方、ゼネコンとして直面するジレンマは、開発による成長の論理と環境配慮のかねあいをどうとらえるかという点だ。これまでの経済原理を容易に克服できない。理念と理想のギャップは大きい。その点について細川さんは「社内的にも議論がありましてね。しかし、結局は質的にいいものを追求しよう、短期的な成果と長期的な価値を見きわめよう、という新しい成長の独自の技術を開発して克服しよう、という新しい成長の哲学を持つというあたりに落ちついたんです。」と結ぶ。(読)

⑤の例からは、まず、「社内的にも議論があった」という部分からもわかるように対象物(その点)に対する行為者の態度は一定でなく、結論に至るまでには様々な見解があったことが示差されている。また、「……というあたりに落ちついたんです。」という曖昧な表現が用いられており、行為者(話者)は結論に対して断定を避ける形で応答している。

これに対して、「に対して」が使われる場合、明確でより直接的な応答表現がなされている場合が多い。

⑥ 「何才まで働くのがのぞましいか」という質問に対しては、男性の場合、アメリカ、イギリス、ドイツでは60才位まで、あるいは65才位までと答えたのがほとんどだったのに対し、日本では70才位まで、とする人が31%にものぼり……(NHK 91.9.14 7:00のニュース)

⑥では、数字が明確に示され、ポイントがしぼられ簡潔・明解な応答がなされている。

このように、アンケート報告やインタビュー記事などでも「について」「に対して」の使い分けをみることができる。以上みてきたことをまとめると、次のようなことがいえる。

「について」は対象物の具体的内容を様々な角度からどうとらえるか、という質問に用いられる。それに対する応答では、応答者は対象物への態度を直接的に示す必要はなく、婉曲で曖昧な応答がなされる場合が多い。これに対し、「に対して」は、行為者(応答者)の、対象物への直接的な態度をきく質問に用いられる。これに対して、応答者は態度(賛成か、反対か等)をストレートにだし、明確・簡潔な応答がなされる場合が多い。

曖昧で、婉曲的な表現の好まれる日本語では、ストレートな応答を要求する「に対して」よりも、曖昧で婉曲的な応答を要求する「について」の方が実際にはよく使われているといえよう。冒頭部分で、「～について」と用いられるべきところに「に対して」が用いられている留学生の誤用例をいくつか挙げた。彼らが曖昧で婉曲的な応答を要求する「について」よりも母国語でストレートな応答を要求する「に対して」を使った応答形式に慣れているのが原因のひとつとして考えられよう。

#### 4 教授法への応用——結びにかえて——

本稿では、「について」「に対して」の意味・用法の違いを共起する動詞の意味的特徴、応答形式等の比較から、明らかにした。日本語学習者が特に「について」の用法がなかなか習得できない原因のひとつは、曖昧で婉曲的な応答形式に慣れていないことにあるといえる。では、「について」「に対して」の意味・用法の違いをわからせるにはどのように教えたらいのであろうか。

現在使われている日本語のテキストでは、「について」「に対して」を他の複合格助詞「において」「によって」等と共にまとめ、例文を提示し、置き換え練習などによって習得させ

る、というケースが多い。確かに紛らわしい例文と共に提示し、学習者に選ばせるという方法は両者の意味の違いがわかるという点で有効であろう。しかし、学習者が「について」「に対して」の用法を習得していくためには、一文のみ提示するという方法より実際のディスコースの中で習得していく方法の方がより有効ではないかと思われる。特にこの方法は「について」「に対して」のような微妙な意味の使い分けを習得するためには必要である。両者の用法の違いがわかり、しかも自然な日本語が使われている実際に近い場面をつくりだし、その中で習得していくことが大切ではないかと思われる。以下に教材案を挙げる。

教材案 (会議の席で)

上司① 新企画について皆さんから御意見をお伺いしたいのですが……。

部下 a よろしいのではないのでしょうか。

部下 b えーと、費用はこれで十分だと思いますが、期間はもう少し短くてもよいのではないのでしょうか。

上司② 今、期間はもう少し短い方が良いのではないかという意見ができました。この意見に対して他の方はどう思いますか。

部下 c 私はちょっとその意見に反対です。今のままで良いと思います。

部下 d 私はbさんの意見に賛成です。

これは会議の席を例にとった教材案である。まず、上司①の発言には「について」が用いられ、対象物(新企画)の具体的な内容について様々な角度からの部下の意見が求められている。aの発言(応答)は新企画の内容に賛成という態度を示しているが、断定の表現を避け、ややぼかした「……ではないのでしょうか」という表現が用いられている。bの発言(応答)も新企画の内容に対して賛成か反対か直接的な態度があらわれていない。bの発言は、新企画の具体的な内容について、期間、人数など様々な観点からの意見が述べられている。これに対し、上司②の発言には「に対して」が用いられ、対象物(期間をもう少し短くするという意見)に対する部下の態度(賛成か反対か)が求められている。そしてc、dの応答はいずれも賛成あるいは反対という姿勢が明確に示されている。

このように実際の場面に混同しやすい語をとり入れ、その使い分けに注目しながらそれぞれの用法を習得させていくことは大切ではないかと思われる。特にこの方法は日本語がある程度使いこなせるようになった中級レベル以上の学習者が、例えば「について」「に対して」のような微妙な意味の使い分けを習得するためには必要であろう。

以上、本節では結びにかえて教授法への応用を考えてみた。学習者が日本語をうまく使いこなせるためには、教師側がまず誤用の原因を明らかにし、意味・用法の特徴がはっきりとわかり、しかも運用面を考慮した教材をつくっていくことが必要ではないかと思われる。今後特に中・上級レベルの日本語教育に残されている課題はまだ多い。今回は中・上級レベルの学習者がよく混同する「について」「に対して」を意味・用法の違いという観点から比較しつつ、論じた。拙稿について御指摘・御批判いただければ幸いである。

[付記]

本稿は、誤用例研究会での報告をもとにまとめ直したものである。佐治圭三先生はじめ貴重なアドバイスを下さった方々に感謝いたします。

## 註

- 1) 本稿で扱う「言語活動をあらわす動詞」の中には、「言う」「しゃべる」など単なる発話をあらわす動詞ばかりでなく、「相談する」「協議する」などのような発話を伴なう行為が行なわれる動詞も含むものとする。
- 2) 「について」が様々な角度から対象物の具体的内容をあらわしている例としては、見出し、論文題目などに「について」が使われていることがあげられよう。
  - e. g. 「ある日英語使用児の言語発達について」(論文題目)
  - 「この曲集について」(タイトル)
  - 「学生の身分について」(会議の報告内容)
- 3) 塚本(1990)は「について」が「を」と交替可能である例をあげている。ここにあげる動詞もほとんどが「を」にも共起するといえる。しかし、「について」が共起する場合と「を」が共起する場合には微妙に意味上の差が生じるのではないかと思われる。この点に関しては今後考察をすすめていきたい。
- 4) 奥田(1983)は「に格の名詞を支配する動詞」の中で「態度的な動作のむすびつきをつくる能力のある動詞」をあげているが、このグループに属する動詞と、「に対して」に共起する動詞がかなり共通するということをつけ加えておく。

## 参 考 文 献

- K. ジョンソン, K. モロウ, 小笠原八重訳, 『コミュニカティブ・アプローチと英語教育』, 桐原書店, 1984
- 北川千里, 鎌田修, 井口厚夫, 『外国人のための日本語例文問題シリーズ——助詞——』, 荒竹出版, 1988, pp. 8~11
- 国立国語研究所, 『現代語の助詞・助動詞——用法と実例——』, 秀英出版, 1984, p. 144
- 桑山俊彦 「助詞」『日本文法事典』, 有精堂, 1981, pp. 214~219
- 益岡隆志, 田窪行則 『セルフ・マスターシリーズ3 格助詞』, くろしお出版, 1987, pp. 81~82
- 森山卓郎 『日本語動詞述語文の研究』, 明治書院, 1988, p. 73
- 仁田義雄 「~について」, 「~に対して」『日本語教育事典』, 日本語教育学会, 1982, p. 395
- 奥田靖雄 「に格の名詞と動詞のくみあわせ」『日本語文法・連語論』, むぎ書房, 1983, pp. 281~323
- 鈴木重幸 『日本語文法・形態論』, むぎ書房, 1972
- 砂川有里子 「複合助詞について」『日本語教育』62号, 日本語教育学会, 1987, p. 42~55
- 高橋太郎 「動詞の条件形の後置詞化」『副用語の研究』, 明治書院, 1983
- 寺村秀夫 『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版, 1982, pp. 87~101
- 寺村秀夫(監修) 『日本語運用力養成問題集——初中級用——』, 凡人社, 1988
- 塚本秀樹 「日本語における複合格助詞について」, 『日本語学』第10巻第3号, 明治書院, 1991, pp. 78~95
- 蔦原伊都子 「~について」『日本語学』第三巻第十号, 明治書院, 1984, pp. 73~80
- 渡辺聡子 「『エトッテ』の教え方覚え書き」『外国語・外国文学研究』第十三号, 大阪外国語大学大学院修士会, 1990, pp. 141~153

## 用 例 出 典

- (アフリカ) 海外ドキュメンタリー「アフリカ音楽ジンバブエ」, NHK教育テレビ, (91.9.6放映)

- (朝) 『朝日新聞』  
(法セミ) 『法学セミナー』36巻9号, 日本評論社, 1991,9  
(心) 『心の習慣』R.N.ベラー, 島藺 進, 中村圭志訳, みすず書房  
(首) 『首はヨコにふってもイエス』広淵升彦, サイマル出版会  
(メ) 『メンデルスゾーン無言歌集』全音楽譜出版社  
(日本語) 『月刊日本語』9月号, アルク出版社(1991)  
(日本人) 『日本人』, 柳田国男編, 毎日新聞社  
(ノル) 『ノルウェイの森』(上)(下), 村上春樹, 講談社  
(欧) 『欧米人が沈黙するとき』, 直塚令子, 大修館  
(信毎) 『信濃毎日新聞』  
(思) 『思想』9月号, 岩波書店, (1991)  
(シュ) 『シュガータイム』小川洋子, 中央公論社  
(読) 『読売新聞と読者』, 読売新聞社, 1991